No. 57 pp.1042-1065 1 - Ⅷ - 1990

寄せ蛾記

埼玉昆虫談話会

YOSEGAKI : Saitama Kontyū Danwakai

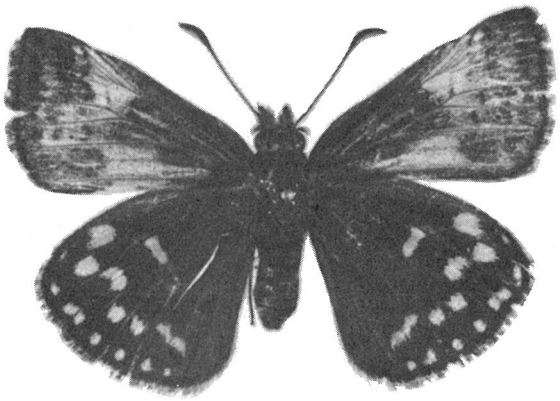


表 紙 の 昆 虫

ミヤマセセリ *Erynnis montanus* (Bremer, 1861)　♀

1988年5月1日　埼玉県北本市石戸宿にて

斉藤　章 採集

寄せ蛾記５２号で報告した、大宮台地での本種の珍しい最近の採集個体。ちなみに、1989年，1990年とも同地では未発見でした。

奥武蔵地方のハナノミ科とハナノミダマシ科

大野 正男

筆者が学生時代、埼玉県奥武蔵地方で採集したハナノミ類を、当時、この科やナガクチキムシに専念していた加藤 晃氏に提供、そのデータリストをいただいたことがある。何かの機会に発表しておきたいと考えてはいたが、あまりにも小さな記録であったため、遂にその機会がなく今日に至った。しかし、その加藤氏も先般急逝、二度とお会いできなくなったので、追悼の意を含め、ここにその時の記録をとどめておくことにしたい。

採集品はすべて筆者によるものであるため、採集者名は省略、また学名は、1950年代の学名で記されていたので、それらは現在用いられている学名に筆者が改めた。

なお、奥武蔵というのは埼玉県外秩父地方を広く指す呼び名であり、刈場坂峠を中心とする奥武蔵高原と混同する人もいるが、これは正しくない。念のため付記しておく。

ハナノミ科　Mordellidae

1. *Curtimorda maculosa* (NAEZEN)　キノコホシハナノミ
   産地：伊豆ケ岳，1951.8.29，1 ex.；1952.9.23，6 exs.
2. *Falsomordellina luteoloidea* (NOMURA)　ナミアカヒメハナノミ
   産地：伊豆ケ岳，1952.7.26，1 ex.
3. *Falsomordellistena altestrigata* (MARSEUL)　フタモンヒメハナノミ
   産地：伊豆ケ岳，1952.7.26，1 ex.
4. *Falsomordellistena chrysotrichia* (NOMURA)　ビロウドヒメハナノミ
   産地：顔振峠，1953.7.24，1 ex.；子ノ山，1953.7.31，1 ex.
5. *Hoshihananomia hananomi* (KONO)　キボシハナノミ
   産地：奥武蔵高原，1952.7.16，1 ex.

6. *Hoshihananomia perlata* (SULZER)　シラホシハナノミ
産地：奥武蔵高原，1952.5.31，1 ex.

7. *Mordella brachyura* MULSANT　クロハナノミ
産地：釜伏峠，1953.5.25，1 ex.

8. *Mordellina atrofusca* NOMURA　トゲナシヒメハナノミ
産地：奥武蔵高原，1952.7.16，1 ex.

9. *Mordellina yamamotoi* NOMURA　ヤマモトヒメハナノミ
産地：奥武蔵高原，1952.7.16，1 ex.

10. *Mordellistena comes* MARSEUL　ヤマトヒメハナノミ
産地：釜伏峠，1954.5.17，1 ex.；奥武蔵高原，1952.7.16，2 exs.；1953.5.25，2 exs.；武甲山，1955.6.2，1 ex.；浦山谷，1954.7.6，1 ex.

11. *Mordellistena kirai* NOMURA　キラヒメハナノミ
産地：釜伏峠，1954.5.17，1 ex.

12. *Pseudotolida awana* (KONO)　アワヒメハナノミ
産地：二子山（横瀬町），1952.5.27，1 ex.

13. *Tolidopalpus galloisi* (KONO)　ガロアヒメハナノミ
産地：広河原谷，1952.7.30，1 ex.

ハナノミダマシ科　Scraptiidae

14. *Anaspis luleola* MARSEUL　キイロフナガタハナノミ
産地：棒ノ折山，1952.5.17，1 ex.；多峰主山，1952.5.25，2 exs.；奥武蔵高原，1952.5.31，1 ex.；釜伏峠，1952.5.17，4 exs.

15. *Anaspis marseuli* CSIKI　クロフナガタハナノミ
産地：棒ノ折山，1952.5.17，1 ex.；多峰主山，1952.5.25，2 exs.；大高山，1952.4.20，2 exs.；武甲山，1952.5.27，1 ex.

（おおの まさお 〒350-02 入間郡鶴ヶ島町脚折町 2－19－14）

埼玉県内の1960年代の蝶の記録

巣瀬　司

先日、１７年ほど前に筆者が原聖樹氏にお渡しした県内の蝶の採集記録が、手元に戻りました。１９６４年から１９６９年にかけてのものです。この時代の筆者の採集記録は県立浦和高校生物部の部誌ＦＡＭＩＬＹの２０号に「１９６７年度秋ケ瀬における蝶類」「秋ケ瀬におけるミドリシジミ（♀）の４つの型の割合」「１９６７年度浦和、大宮における採集記録」「桶川周辺の蝶類」「武甲山Ｉ」「武甲山ＩＩ」「雁坂峠」と、ＦＡＭＩＬＹ２１号に「１９６８年度浦和、大宮、桶川における蝶類」として報告しました。今回手元に戻った採集記録は、上記の報告に「含まれていないもの」で、当時あえて報告する必要を感じなかったものです。

ここに上記の報告を補足する意味で、記録に残したいと思います。なお＊印はＦＡＭＩＬＹ２０号の「雁坂峠」に記録済です。

１９６４年８月　武甲山（御花畑～山頂～浦山口）

キアゲハ	3	サカハチチョウ	5
ミヤマカラスアゲハ	4♂	スミナガシ	1♂
スジボソヤマキチョウ	2♂	クモガタヒョウモン	1♂
アサギマダラ	1	アオバセセリ	1♂
コムラサキ	2♂		

１９６５年４月６日　長瀞、宝登山

キアゲハ	2♂	スジグロシロチョウ	1♂

１９６５年５月１６日　寄居町

クロアゲハ	1♀3♂	モンキチョウ	2♂
アオスジアゲハ	1	コジャノメ	2♂

１９６５年６月２７日　吉見百穴

ジャコウアゲハ	1♂	ツバメシジミ	2♂

１９６５年８月３日　武蔵嵐山

ジャコウアゲハ	2♀		

１９６５年８月１７日　三峰山（ロープウェー入口～三峰山頂～妙法岳）

オナガアゲハ	2♀	クジャクチョウ	1

ミヤマカラスアゲハ	２♂	ヒメアカタテハ	１
カラスアゲハ	１♂	コキマダラセセリ	１♀＊
キアゲハ	１	スジグロチャバネセセリ	１♂＊
ヒメキマダラヒカゲ	２♀１０♂	ヘリグロチャバネセセリ	１♂＊
サカハチチョウ	３	アオバセセリ	３♀１７♂＊
スミナガシ	１♂		

１９６６年3月１日　浦和高校校庭

アカタテハ	１		

１９６６年3月１０日　大宮市宮原

モンキチョウ	２♂		

１９６６年3月１７日　川本村

モンシロチョウ	１♂	ベニシジミ	２♂
モンキチョウ	１♀６♂		

１９６６年4月１６日　浦和市秋ケ瀬

ツマキチョウ	１５♀３０♂	ミヤマセセリ	１♀

１９６６年4月２９日　浦和市田島ケ原

キアゲハ	１♀３♂	ツマキチョウ	２♂

１９６６年7月２７日　浦和市秋ケ瀬

ミドリシジミ	３♀		

１９６６年8月7日　三峰山

カラスアゲハ	１♀	スミナガシ	１♀１♂
スジボソヤマキチョウ	１♀	サカハチチョウ	２
ヒメキマダラヒカゲ	２♂	コキマダラセセリ	１♂＊
キベリタテハ	１	スジグロチャバネセセリ	４♂＊

１９６６年１１月２６日　浦和市秋ケ瀬

オオムラサキ（幼虫）	１３	ゴマダラチョウ（幼虫）	５６

１９６７年3月２５日　鎌北湖

スジグロシロチョウ	２♂	モンシロチョウ	４♂
キチョウ	１♀	ヒオドシチョウ	２
モンキチョウ	３♂	ベニシジミ	１♂

１９６７年4月５日　北本町下石戸下

スジグロシロチョウ	１♀	ルリシジミ	１♀３２♂
ミヤマセセリ	２♂		

１９６７年4月２４日　浦和高校校庭

クロアゲハ	１♂		

１９６７年5月３日　上尾市中妻

クロアゲハ　　1♂
１９６７年5月3日　上尾市東栄寺
キチョウ　　1♂　　ツマキチョウ　　1♂
コミスジ　　2♂
１９６７年5月２１日　桶川町南２丁目
クロアゲハ　　1♂
１９６７年5月２６日　大宮市中川
アカシジミ　　1
１９６７年6月1日　大宮市中川
ゴマダラチョウ　　3　　ミドリシジミ　　1♂
アカシジミ　　3
１９６７年6月5日　大宮市中川
ヒオドシチョウ　　2　　アカシジミ　　3
ミズイロオナガシジミ　1
１９６７年6月6日　浦和市駒場
アカシジミ　　1
１９６７年6月１５日　浦和市下木崎
キアゲハ　　1　　オオチャバネセセリ　　2♂
１９６７年6月１６日　浦和市秋ケ瀬
オオムラサキ　　1　　ミドリシジミ　　6♂
１９６７年6月１９日　浦和市駒場
ミドリシジミ　　1♂2♀（Ｂ，Ｏ）
１９６７年6月２０日　浦和市駒場
キチョウ　　1♂
１９６７年7月9日　北本町下石戸下
クロシジミ　　2♀2♂
１９６７年8月１８日　桶川町谷津
クロアゲハ　　1♂
１９６７年9月9日　北本町下石戸下
クロアゲハ　　1♂
１９６７年１０月5日　吉見村江和井
ツバメシジミ　　2♂　　ベニシジミ　　1♀
ウラナミシジミ　　3♂
１９６７年１０月9日　上尾市中妻
ツマグロキチョウ　　１２
１９６７年１０月２５日　北本町下石戸下

ツマグロキチョウ　２　ウラナミシジミ　１♂
１９６７年１１月１１日　浦和市秋ケ瀬
オオムラサキ（幼虫）　３　ゴマダラチョウ（幼虫）　３５
１９６７年１１月２５日　浦和市秋ケ瀬
オオムラサキ（幼虫）　１０　ゴマダラチョウ（幼虫）　５８
１９６７年１２月３日　桶川町上日出谷
ゴマダラチョウ（幼虫）７５
１９６７年１２月２９日　吉見村江和井
ゴマダラチョウ（幼虫）２８
１９６８年3月１日　北本町下石戸下
ゴマダラチョウ（幼虫）５
１９６８年１２月１日　上尾市東栄寺
ゴマダラチョウ（幼虫）４
１９６８年１２月８日　桶川町上日出谷
ゴマダラチョウ（幼虫）１１
１９６９年1月２７日　浦和市北浦和
アカタテハ　１
１９６９年2月１２日　桶川町南２丁目
キチョウ　１♂
１９６９年2月１２日　吉見村江和井
キタテハ　２
１９６９年3月１０日　吉見村江和井
モンキチョウ　１♂　キタテハ　３
１９６９年3月１９日　小川町
モンキチョウ　１♀６♂　モンシロチョウ　１♂
キチョウ　１♂　キタテハ　３
１９６９年3月２４日　浦和市北浦和
キタテハ　１
１９６９年3月２５日　桶川町篠津
モンキチョウ　１♂　キタテハ　４
１９６９年4月３日　奥武蔵、物見山
キアゲハ　１　ルリタテハ　１
モンシロチョウ　１♂　アカタテハ　１
スジグロシロチョウ　１♂　ヒオドシチョウ　１
モンキチョウ　１♂　ルリシジミ　４♂
１９６９年4月７日　上尾市中妻

モンシロチョウ	２♀４♂	ルリタテハ	１
キタテハ	１２	ルリシジミ	１♀１１♂
ヒオドシチョウ	１		
１９６９年4月１０日	桶川町川田谷		
スジグロシロチョウ	１♂	キタテハ	８
１９６９年4月１０日	上尾市井戸木		
ミヤマセセリ	１♂		
１９６９年4月１１日	上尾市東栄寺		
スジグロシロチョウ	１♂	ミヤマセセリ	１♂
１９６９年4月１２日	上尾市小泉		
アゲハ	１♂		
１９６９年4月１２日	上尾市東栄寺		
スジグロシロチョウ	３♂	ベニシジミ	１♂
キタテハ	４	ミヤマセセリ	２♂
ルリシジミ	４♂		
１９６９年4月１４日	上尾市中妻		
キチョウ	３♀１♂	ツマキチョウ	２♂
１９６９年4月１４日	上尾市東栄寺		
ヒオドシチョウ	１	ミヤマセセリ	１♂
１９６９年4月１８日	上尾市東栄寺		
ルリタテハ	１	ミヤマセセリ	２
ベニシジミ	１♀		
１９６９年4月２０日	上尾市小泉		
ヒオドシチョウ	１		
１９６９年4月２０日	上尾市石戸領家		
スジグロシロチョウ	２♀７♂	ルリシジミ	２♂
ツマキチョウ	４♀８♂	ミヤマセセリ	１♀１♂
キチョウ	１♂		
１９６９年4月２８日	上尾市中妻		
アゲハ	１♀１♂	コミスジ	１♂
キアゲハ	１♂	ルリシジミ	１♂
クロアゲハ	１♀	ヤマトシジミ	１♀
ツマキチョウ	１♀２♂	ツバメシジミ	１♀
キチョウ	１♀１♂	ベニシジミ	１♀
ヒオドシチョウ	１	ミヤマセセリ	１♂
１９６９年4月２９日	桶川町南２丁目		

アゲハ	1	キチョウ	1♀
クロアゲハ	1♀		
１９６９年4月３０日　桶川町南２丁目			
クロアゲハ	1♀	コミスジ	1♂
１９６９年5月3日　桶川町谷津			
アオスジアゲハ	1	ツマキチョウ	2♀3♂
アゲハ	2	コミスジ	5
クロアゲハ	1♀1♂		
１９６９年5月3日　吉見村江和井			
キアゲハ	1♀	キタテハ	2
モンキチョウ	1♀1♂	ヤマトシジミ	1♂
ヒメウラナミジャノメ	9		
１９６９年5月3日　北本町下石戸下			
キチョウ	2♀	ツバメシジミ	2♂
ベニシジミ	2♂	ギンイチモンジセセリ	1♀
ルリシジミ	1♀1♂	コチャバネセセリ	2♂
１９６９年5月8日　桶川町南２丁目			
クロアゲハ	1♀	ダイミョウセセリ	1
１９６９年5月１０日　桶川町南２丁目			
クロアゲハ	1♀	サトキマダラヒカゲ	1
１９６９年5月２０日　桶川町南２丁目			
ヒメジャノメ	1♂	ダイミョウセセリ	2
１９６９年5月２３日　桶川町南２丁目			
イチモンジチョウ	1♂		
１９６９年6月２２日　桶川町南２丁目			
キマダラセセリ	1♀		
１９６９年7月１９日　桶川町南２丁目			
クロアゲハ	1♂	オオチャバネセセリ	1♀
１９６９年7月１９日　桶川町谷津			
キタテハ	4	ダイミョウセセリ	2♀
ベニシジミ	1♀	イチモンジセセリ	5
１９６９年7月１９日　北本町下石戸下			
アゲハ	3	ジャノメチョウ	3♂
カラスアゲハ	1♂	コミスジ	１６
スジグロシロチョウ	2♂	ゴマダラチョウ	1♀
キチョウ	1♀1♂	クロシジミ	5♀2♂

ヒメウラナミジャノメ	１♂	コチャバネセセリ	4
１９６９年7月１９日　吉見村江和井			
キアゲハ	9	ツバメシジミ	３♂
モンキチョウ	２♂	ヤマトシジミ	１♂
モンシロチョウ	１♂	ルリシジミ	１♀１♂
１９６９年7月２１日　大滝村上中尾			
キアゲハ	１♀	サカハチチョウ	3
クロアゲハ	１♂	コムラサキ	１♀
アゲハ	２♂	ゴマダラチョウ	1
カラスアゲハ	１♂	オオムラサキ	１♀
モンキチョウ	４♀２♂	アカタテハ	5
キチョウ	３♀２♂	ヒオドシチョウ	１♂
モンシロチョウ	３♀１５♂	ルリタテハ	2
スジグロシロチョウ	２♀１♂	ミドリヒョウモン	４♂
エゾスジグロシロチョウ	１♂	ベニシジミ	3
ヒメウラナミジャノメ	１♀	ヤマトシジミ	４♀４♂
クロヒカゲ	１♀	ツバメシジミ	４♀３♂
コミスジ	6	コチャバネセセリ	１♂
オオミスジ	４♀３♂		
１９６９年7月２２日　大滝村川又			
ミヤマカラスアゲハ	１♂	ホシミスジ	1
モンキチョウ	３♂	サカハチチョウ	5
キチョウ	２♀１♂	シータテハ	１♂
モンシロチョウ	４♀６♂	アカタテハ	3
スジグロシロチョウ	３♀４♂	クジャクチョウ	1
エゾスジグロシロチョウ	１♀	ミドリヒョウモン	１♂
テングチョウ	4	ベニシジミ	1
ヤマキマダラヒカゲ	1	ツバメシジミ	２♂
コムラサキ	２♂	ヤマトシジミ	１♀２♂
イチモンジチョウ	１♂	スジグロチャバネセセリ	１♂
コミスジ	2	イチモンジセセリ	1
オオミスジ	１♀	オオチャバネセセリ	1
１９６９年7月２２日　大滝村川又～雁坂小屋			
モンキチョウ	１♂	クロヒカゲ	9
キチョウ	１♂	ヤマキマダラヒカゲ	2
モンシロチョウ	１♀３♂	コミスジ	2

スジグロシロチョウ	２♀１♂	ミドリヒョウモン	２♂
ウラジャノメ	１	ツバメシジミ	１♂
ヒカゲチョウ	１		

１９６９年7月２３日　雁坂峠

モンキチョウ	１♂	スジグロシロチョウ	１♂
モンシロチョウ	１♀（雁坂峠、標高 2082mの地点で採集したこの個体は未発表の Homoeosis個体である）		
クロヒカゲ	１♀１♂		

１９６９年7月２４日　長野県戦場ケ原～梓山

モンキチョウ	２♀１♂	ルリタテハ	１
キチョウ	１♀	コヒョウモンモドキ	１♀１♂
スジボソヤマキチョウ	３♂	ウラギンヒョウモン	３♂
モンシロチョウ	１♀５♂	ギンボシヒョウモン	２♀１♂
スジグロシロチョウ	６♂	ミドリヒョウモン	１♂
エゾスジグロシロチョウ	３♂	エゾミドリシジミ	１♀４♂
ヒメウラナミジャノメ	３	ベニシジミ	１
ジャノメチョウ	４♂	ヒメシジミ	７♀１０♂
ウラジャノメ	１♀１♂	ヘリグロチャバネセセリ	２♂
クロヒカゲ	１♂	コキマダラセセリ	１♀
キマダラモドキ	３	ヒメキマダラセセリ	１♀２♂
エルタテハ	１	イチモンジセセリ	１♀

１９６９年7月２７日　桶川町南２丁目

アオスジアゲハ	１	クロアゲハ	１♂

（すのせ　つかさ　〒336 浦和市大牧梅所1149-11 春栄マンション 203号）

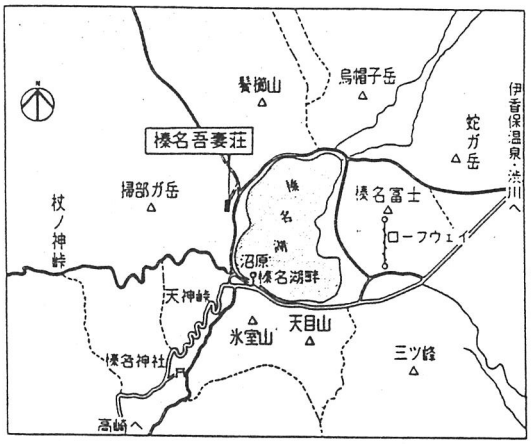
恒例 お楽しみ ！

夏の宿泊談話会のお誘い

先日、会員各氏にハガキでご案内しましたが、今年も下記のとおり夏の宿泊談話会をおこないます。すでに申し込み期限は過ぎていますが、これからどうしても参加したいという方は、江村薫氏まで連絡をとってみてください。キャンセルなどで都合がつくかもしれません。

日 時：１９９０年８月４日(土)～５日(日)
場 所：榛名湖畔　　国民宿舎　　榛名吾妻荘
〒370-33　群馬県室田局区内榛名湖畔 2654
☎ 02737－4－9106／9338
参加費：おとな 約7000円，こども 約5000円.
申し込み：7月27日までに、江村薫(☎ 0480-22-5864) まで
予 定：４日午後６時ころまでに宿舎に直接ご参集下さい。
６時半から夕食をはじめたいと思います。
翌５日は、午前８時頃に記念撮影をして現地解散の予定です。

※ 周囲のホテル、自動販売機、などの灯りは宝の山です。
※ 警察に怪しまれないように、**群馬県警に連絡しておきました。**
※ 周囲の草原には昆虫類が多く、特にホシチャバネセセリが多いとのことです。
※ 榛名吾妻荘は帰部ガ岳(かもんがたけ)の登山口です。近くに氷室山、天目山、榛名富士があります。パワーに溢れた方は登山のほうもお楽しみ下さい。



パ　ッ　君

小野寺　奈緒子（勝浦小学校２年）

前の夏の時、お父さんがおきなわに行ってキノボリトカゲを見つけて来ました。その名前は「パッ君」ていう名前です。
なんで「パッ君」という名前かというと、えさの小さいコオロギをパックンと食べるからです。

もようは緑とはい色のしましまです。じまんはせなかにギザギザがあること。パッ君の体の色はかわるんだよ。パッ君のすみかは、大きい虫かごの中の小さい木で、はっぱのところにいる時は緑色で体にひしがたの形が二つ。木のところにいる時はこげちゃ色です。　木にきりふきで水をかけると、はっぱについた水のところに体をこすりつけて水あそびをします。木のところに水があったら、口をつけてかわいく飲みます。

せなかをなでると、じろりとよこ目で見るからこわいです。
しっぽをそっとつかむと、木の上にのぼってしまいます。

足には、つめがあります。さわってみたら、つめがとがっていていたかった。「パッ君のつめがのびているから、切ってあげれば。」っておかあさんに言ったらパッ君は虫かごの中を走りまわりました。私は大わらいしました。そしたら、おかあさんが「パッ君は『木のぼりとかげ』だから、つめを切ったら木にのぼれなくなって、木のぼりとかげじゃなくなっちゃうでしょ。」って言ったので、つめを切るのをやめました。
パッ君はきせつによってごはんがちがいます。春夏はハエを食べます。春夏はハエがパッ君はすきなんだって。秋11月の終りくらいまではパッ君は小さいコオロギがすきなんだって。

あたたかいところがふるさとだから、17どぐらいになると、さむくて、あまりうごきません。
もう冬になってきたし、パッ君はおきなわから来たとかげで、えさがコオロギの小さいのだから、どうなるか、しんぱいです。
パッ君は私のペットです。

おわり

（おのでら　なおこ　〒２９９－５２かつうら市くしはま１２３１－１）

1989. 6. 1
1990. 1. 9

キノボリトカゲについて

小野寺博昭

１．産　地；沖縄県石垣島オモト岳（MAY 20, 1989）……JUN. 7, 1989死亡。
沖縄県与那国島　　(SEPT. 27, 1989)

２．捕　食；昆虫類を捕食する時は目で追い、首を回して目標を素早く敏捷に，口で「パクッ！」という感じで捕食する。
蠅を３，４匹食べると満腹になるらしく、定位置に戻って居眠りを始める。

３．嗜　好；やはり好みがあるようで、空腹の場合や他に食べるものが無い場合には蜘蛛，蟻でも食べるが、ある程度満たされている場合は好みの昆虫しか手を出さない。また、満腹の場合は好きな昆虫類でも全く関心を示さず、知らん顔をしてすましている。
特に好むのは、蠅，小さいコオロギなどで、バッタは食べない。

４．体　色；緑色が強くなったり、茶色が濃くなったり，カメレオンのように，変化する。

５．飼育上の留意点；体表面に一定の水分が必要なようで、乾燥しないように時々霧吹きをすること。又、口をつけて水を飲むので、霧吹きは葉や幹にもたっぷり施す方が良い。

６．越　冬；冬になって一定の温度以下になると動きが不活発になり、代謝量も減るのか、殆ど摂食せず、半ば冬眠状態になる。

以上

こちらのページは、おとうさんによるフォローであります。（編集子）

・・・・・・・・・・・【座談会】

埼玉県平野部のミヤマセセリをめぐって

市川和夫・原聖樹・巣瀬司・碓井徹・松本和馬

・・・・・・・・・・・

この話は、1989年正月に市川和夫氏宅に集まった表記の会員４人が市川氏と共に、本県平野部から何故ミヤマセセリが消えていったのかを語りあったものです。最初から寄せ蛾記の原稿として扱うつもりで話し合っていたので、アルコールの勢いでやや放言めいた部分があるものの、ある程度方向性のあるそれなりにまとまった話が出来たのではないかと思っています。

原　：では始めましょうか。テーマは『都市周辺からミヤマセセリがなぜ消えたか。』でいきましょう。
松本：あまりおもしろくないなあ。
巣瀬：２年くらい前にそのテーマで話し合いをもった時も、結構いい事言ってるんですね。
碓井：ああ、書いてありました。（シラサギ記念博物館の館報『イグレッタ』のこと）
市川：あのときは、掘り下げ方が足りなかった。
巣瀬：でも掘り下げるといってもデータが足りない。
碓井：イグレッタの記事も巣瀬司さんに了解がとってあって、寄せ蛾記に転載しようと思っている。話の内容としてはダブる部分も出てきそうだけれど。
市川：転載するよりは、ここでの話を原稿にした方がまとまるでしょう。
碓井：では、そうします。
巣瀬：あれにもいい話は出て来ますよね。とにかくミヤマセセリについて話すには手持ちの具体的なデータが足りない。特にこのあたりでのものが非常に少ない。
原　：ではテーマを『都市の雑木林といなくなったミヤマセセリ』にする？
市川：そういう事だよね、まだ丘陵や低山地にはたくさんいるのだから。
松本：都市の雑木林から姿を消した蝶はほかにもいっぱいいるのでは？
巣瀬：そのうちのミヤマセセリが代表的なものと考えているわけでしょう。
碓井：つまり、『いてもおかしくない環境が残っているところにもいない』と言う意味でミヤマセセリは顕著でしょう。
松本：昔は、こんなところに、と思えるところでも姿をみかけたこともある。
碓井：それは1970年代でしょう。
原　：ミヤマセセリ属はユーラシア大陸に４種、アラスカ、カナダから北米大陸に分布。北米大陸に分布の中心があって、南のほうではアルゼンチンにもおり、北米から南米にかけて１７種がいるとされている。このミヤマセセリのモンタナ属は中国大陸上部からアムール、朝鮮半島から日本ということで、日本の近辺に分布している仲間である。特に年１回春に出現する、いわゆるスプリングエフェメラルの

蝶でなかなかおもしろいと思う。まず、埼玉県におけるミヤマセセリとの出会いを一人ずつ話を聞かせて下さい。

松本：埼玉県で最初に採ったのは三峰山です。もう浦和の周辺ではではいなくなっていた時代のこと。

巣瀬：何年ごろ？

市川：フィールドノート(浦和高校生物部が適宜発行していた採集記録集)に書いているじゃない。

松本：あれは碓井さんの記録ですよ。

巣瀬：いつ頃かは、ある程度はっきりさせておいたほうが良いでしょう。

松本：1970年頃に三峰山で採ったのが最初、ということになる。それまでミヤマセセリは、山に行かないと採れないチョウだと思っていた。

市川：そうだよね、名前がミヤマだもの。

巣瀬：学名もモンタヌスだもの・・・

松本：そのころ学名のことまでは知らなかったけれど。あれは“山”の意味？

碓井：保育社の図鑑に学名のことは書いてあったと思う。

松本：平地で始めてみたのは高校卒業の年、いま住んでいる上尾。昭和４０年なかば、そのころはたくさん見られた。近所の雑木林にたくさんおり、こんな所・・・と思える小さな林にさえ見られた。それが出会いといえば出会い。ただし、他所の地方で春に採った、という経験はあった。いずれにしても山がちのところだった。一番高いのは谷川岳の天神平。あそこにもいましたねえ。ミズナラの低いのがあそこには結構あった。

原　：あのあたりのはかなり低いねえ。

松本：ヒザくらいの高さ。でもそんなミズナラにゼフもいたりして。

市川：私は浦高の生徒の時だから４５年ころ。

巣瀬：昭和？

市川：1900・・・・。当時の浦高の生物部がしょっちゅう行っていたのは、放課後自転車を使ってで連昌寺(浦和市駒場)のあたり。それから、付属小の近くの稲荷台というあたり。で、ボクはそこらでコシロシタバなんかを採っていたのだけれど、鈴木っていう蝶をやっているのがいて、やたらと林のなかでミヤマセセリばっかり採っていた。それから、浦和市立高校の教員をやっていたときも、その周辺の林はアレばっかりね。

巣瀬：何年頃ですか。私がいた頃だから・・・・

市川；1960年代の終わり・・・。あの頃は、春に行くと、ミヤマセセリと越冬したタテハ全種がいた。最近では、高坂の林。三峰山などでは見たことないね。

碓井：たくさんいますよ、あそこには。

市川：春に行かないってことなんだ。

碓井：６月頃ににもいる。

松本：５月からいますよ。

市川：あとは、フィールドノートをみると、1969年の４月までは毎年駒場の連昌寺で碓井さんが採っていると・・・で。最後は、本多健一郎さんが1974年に記録したの

が、記録のうえでは最後でしょう。

碓井：いま『雑記蝶』で集めている記録には、1980年代の半ばに川口で記録されている。

原　：私は小学校６年からチョウチョをやり始めた。動機というのは、その４月に本屋で保育社の『蝶のいろいろ』というポケット図鑑を買って、それがきっかけとなった。その図鑑にはミヤマセセリはでていなかった。中学１年に、毎日中学生新聞を友達が持ってきて、それに書いてあった『春の蝶』にミヤマセセリが載っていた。で、それが全国にいると書いてあるものの、図鑑には載っていないし珍しいと感じていたが、その年の春に探してみようと、近所の与野市ホムラタというところへ行ってみたらコナラの雑木林があり、そこの林縁の道路で見たのがミヤマセセリとの出会い。

巣瀬：私は桶川に住んでいたが、桶川といっても採集はほとんど上尾、北本の領域だった。そこには、1965年前後にはかなりいた。春先にはごく普通の蝶だった。1965年から３年間は高校生だったので、もっぱら秋ケ瀬にいっていた。秋ケ瀬では、個体数はあまり多くなかった。埼玉県では、秋ケ瀬、上尾／北本、平野部ではその２カ所のみ。５月に武甲山いったことが何回かあり、連休過ぎにはかなり大量にいた。

市川：武甲山のどのへん？

巣瀬：中腹です。登りはじめから中腹くらいまで。かなり見られた。鹿児島にもしばらくいたが、鹿児島では見ていないです。で、阿蘇にオオルリシジミを採りに行ったとき、その時に５月の連休だけれど、オオルリシジミは採れなかったけれど、ミヤマセセリはパラパラ見られた。高校当時は、ミヤマセセリは全然珍品ではなく、クロシジミもそうだった。クロシジミも1960年あたりだと、上尾、北本、どちら側に行っても、ミドリシジミやアカシジミを採るのよりも簡単に見付けられる蝶だった。クロシジミ、ミヤマセセリとも全然珍しい蝶ではなかった。

碓井：私は、1960年代の真ん中に連昌寺で採ったのが最初ですね。中学校のときは、自転車で連昌寺にいって春先、大体、ルリシジミ、ヒオドシあたりが飛んでいると、黒いちっこいのが飛んでいてそれがミヤマセセリだった。高校にはいって大宮の御蔵や中川にいくようになって、その辺の森に随分いた記憶がある。同じ場所の蝶として記憶しているのがオオミドリシジミです。時期は違うけれど、連昌寺でまだオオミドリが採れていた時代だったし、御蔵や中川でも６月に実際に採った事がある。それで、三峰山に通い出したらそこでも採れた。もっと手前の寄居の鐘撞堂山のてっぺんでも随分採れて、ああ、山にもいるんだなあ、と思った。最初は平野の蝶だと認識していて、あとで、山にもいるんだなあ、と。大学時代には金沢では、あまりたくさん見た記憶はない。

その中で、ひとつ変わった記憶があるのは、能登半島にいったとき、ゴルフ場の芝生の上にたくさん飛んでいたのが面白かった。

松本：金沢では、杉などを植えるために伐採して明るくなった所でたくさん見られた。その回りにはコナラなどもたくさんあって。

巣瀬：クロシジミ的な・・・

松本：そうそう・・・・。

碓井：明るくなった場所。

巣瀬：一度切ってしまって、明るくなった場所に入って来る。
市川：ミヤマセセリはこのあたりでは、コナラ食いなのクヌギ食いなの？
全員：コナラでしょう。
原　：このあたりの台地ではだいたいコナラのようですね。
松本：卵は割に簡単にみつかりますね。
市川：あれは、春に卵を生んで・・・。
碓井：延々と秋まで・・・・
原　：冬は落ち葉の下ということになっている。
市川：翌春は食わないで蛹になるの？
原　：食べない。
巣瀬：タイミング的にも食えない
原　：私が最初にみたときもツマキチョウなどといっしょにいた。それで、あれは独特の匂いがするんですよ。堆肥ににたような。
一同：それは知らない！！
原　：生きている個体の匂いをかいでみるとよく分かるけれど。ギフチョウの仲間はちょっと独特の芳香があるし、メレテもすごいし。アオバセセリもアズキをあまったるくしたような匂いがある。あと、一番いい匂いがするのがミスジチョウ、これはスモモのにおいがある
市川：原さんは特異体質ですか？全部書いた方が良いですよ。『蝶の匂い』というテーマで。ナピとメレテの雄は、私は匂いで区別が出来るんです。
松本：あれは、たくさん飛んでいる場所に行くと、空気だけで感じる人もいるそうですが・・・・。
巣瀬：花粉をつけているから・・・・？
原　：いいえ、花粉の匂いじゃない。ミヤマセセリはどんなに採っても、全部がその匂い。
市川：キアゲハはどは、ユリの花のにおいがする
巣瀬：あれは、完全に花の匂いでしょう。
原　：とにかく、堆肥のにおいがするのはミヤマセセリだけですよ。
市川：とにかく、そのチョウチョの匂いについては、なるべく早く書いておいた方が良いですよ。
原　：さて、一通り、皆さんにミヤマセセリとの出会いを話して貰いました。
私は現在神奈川にいて、春先にミヤマセセリを探すことはしていないので、他人の話でしか現状を知らないのだけれど、この場で、一応、どこまでいてどこまでいないのかをハッキリさせておきたいと思います。私は学生時代つまり1950年代の与野駅から現在の浦和西高校へ向かって１キロもいかない、上木崎という地名の当たりの住宅街のなかに雑木林があったんですよ。ある程度の広さを持ったコナラ林が。その場所をその時期に何回も通って姿がみられない。ほかの林ではいくらでもミヤマセセリの姿があるのに、この住宅街のなかの林では一向に姿がみられない。今にして思いば、そこにミヤマセセリはいなかったと断言してもよいのだけれど、その林は都市にもっとも近かった林ですよね。そこにいなかったと

いうことは、当時の状況下において都市の影響を受けた雑木林であり、その都市化のバロメーターとしてミヤマセセリは非常に明瞭な反応を見せる種としてとらえられるのではないだろうか。そのような観点からミヤマセセリをとらえてみて、

埼玉県の平野部にどのあたりまで残っているのかあきらかにしていきたいのですが。地理的な観点から、どのあたりに残っていてどの辺にはもういないのか。

松本：埼玉県の北の方へいくと雑木林はあまり残っていないですねえ。
巣瀬：大宮台地では？
碓井：北本で採れたましたね。
原　：秋ケ瀬はもういないのかな。雑木林は残っているのですか。
碓井：我々が高校生のときももう秋ケ瀬にはいなかった
原　：私の時代にはいましたよ。
巣瀬：私の記録ぐらいが最後でしょう
碓井：連昌寺や御蔵にいけばたくさんいるのに秋ケ瀬にはいないという状況だった。
市川：秋ケ瀬にはコナラはあまりないすねえ。
碓井：連昌寺がそうだった。連昌寺の林を広大にしたのが秋ケ瀬だといっても良いくらい。だから、秋ケ瀬になぜいないのかが不思議だった。
巣瀬：今の状況で言うと、植生が違う感じですね。やっとクヌギが入り込んで来た感じ。やはり台地と低地は違いますね。だから秋ケ瀬では、最初からアカシジミやウラナミアカシジミを採ろうとは考えていなかった。それでも、数少ないクヌギでチョボチョボとは発生していた用だけれど。
原　；北本には残っていると言ったけれど、上尾には残っていないの？
松本：上尾には、もういないですね。
巣瀬：北本にいたこと自体、驚きですよ。あれだけみんなで探してみつからなかったのだから。
原　：浦和から記録が消えたのはいつ頃なの？
市川：1974年。
松本：大宮の山久保でとれたでしょう。
市川：それも同じころでしょう。
原　：東松山の方はどうなの？
市川：いまでもいますよ。
原　：川越、的場は？
市川：もういないですね。
碓井：比企丘陵にはいますね
原　：丘陵になっちゃうといるんですね。大宮台地だって、昔は雑木林さえあればどこにでもいたですよ。
碓井：でも、私が連昌寺でやっていたころ、浦和の本太の雑木林にはもういなかったですよ。
巣瀬：丁度、碓井君がやっていたころが激減の時期だったのでしょうか。
碓井：そういえば私が中学１年の時に、連昌寺で知り合いがオオミドリを採ったのが駒

場でのオオミドリの最後の記録。アカシジミはポツポツ残っていてミズイロオナガは本太にも連昌寺にもかなりいた。その後、しばらくして高校生になったころには本太からゼフは殆ど消えてしまった。その前にも、ミヤマセセリはいなかったと。連昌寺は明るい雑木林という印象が強いですよね。

市川：そう。だから薪炭林でなくなって・・・・・。

原　：そのことから、次にどうして姿が消えたかについて・・・・。

巣瀬：生態的地位がクロシジミに非常に良くにている。まったく同じ。一度木を切って明るくなった所に入り込んでくる。周囲には林が残っていて。

原　：良く言われるように、人間の生活様式が変わって来て、結局マキを使わなくなり、雑木林も放っておかれ木は伸び放題。今までみたいに、適当な長さに伸びた木が減った。それまでの疎林的な環境から極相のような状態になってきている。特にクヌギの林などはそうなってきて林床がかなり暗くなってきている。そうなってくると林床にスミレなどの吸蜜植物が育たなくなる。それに除草とか落葉かきとかをしなくなって、ますますその傾向が強くなってきてしまった。その結果、アズマネザサなどが繁茂してくる。

碓井：ササ類がはびこるのは大きいですよね。

原　：ようするに、雑木林の管理形態が労働事情の悪化によって変化してきたと。林床の状況が大きくかわってしまった。そのためミヤマセセリの天敵相などもかわってきたでしょう。

巣瀬：でも、そう考えてくると山はどうなのだろうか。

碓井：山は、色々な環境がパッチ状態に残っているから。一見、いつも同じ山の同じ場所にいるようにみえても、実際には好きな環境の所を選んでいるのではないかと。

松本；山も1200～1300メートルくらい行くと下生えもあまりひどくはないし。

碓井：ミヤマセセリの印象というとあの絵（市川氏宅の応接室の壁にかかっている秋ケ瀬の雑木林の風景画）でいうと、白っぽく見えている明るい所にピタっと止まるチョウ。そう考えるとササ類が繁茂してくると止まる場所がなくなってしまう。山ならば色々な状況がパッチ状態にあるから、都合が良い場所にとまるという・・

原　：結局、雑木林の管理形態の変化によって林床の状況が変わってしまったこと一番おおきいのではないでしょうかねえ。

巣瀬：生活史そのものからみると、クロシジミもそうだが話のつじつまがどことなく会わないような気がする。なぜミヤマセセリが切ったひこばえなどに依存するのだろうか。ひこばえでなくてもいいような気がするのだが。このあたり（浦和）にもコナラはあるし、私が現在すんでいる見沼近辺も雑木林は急速になくなっているものの、それでもコナラなどはけっこう残っているし。そこにさえもいない。過去にはいたであろうけれど。たしかに、昔この付近を調査したひとはいなかったようだが。いまの浦和短大があるあたりはよさそうな環境だし。

市川：そう、あのあたりの林の明るさはミヤマセセリにとって絶好ともいえる雰囲気だし。

巣瀬：いまでもよい場所だと思う。去年の春にその近辺を歩いたとき、急遽ミヤマセセリ探索会になったて、『これはいる環境だな』と言いつつ一生賢明に探したが見

つからなかった。

原　：確かにそのような環境はいまでもあちこちに点在するものの、それぞれの林が孤立している感じが強い。だから、いったん林を飛び出してしまった個体がそこにもどれなかったり、他の個体群との交流が途絶えたりして・・・・。それに、ムクドリとかオナガとかシジュウカラなどがからんできて・・・・

市川：そう、それに幼虫期間が長いことも一因といえそうだ。

原　：雑木林が小さく点在することでそのような捕食圧が集中する結果となる。

松本：それはどうかな。捕食圧は絶対量が大切だと思うけれど。

市川：絶対量はかなりのものではないだろうか。

松本；絶対量は、それが大きくてもそれがコンスタントであるならば減らす原因にはなりえないし。

巣瀬：話しはちょっと違うけれど、去年カナダのバンクーバー（国際昆虫学会）へ行った時のことだけれど、チョウの種類数が少ないのはまあ解るけれど個体数が非常に少ないことが不思議だった。自然環境はきわめて豊かなのに。バンクーバーの郊外に林がずっと続いて、切れた所は草原になっていて花はたくさん咲いているのに、とにかくチョウの数が少ない。シロチョウなどは全部みた個体数が２頭だったし。その他の種も数えられる程度だし。食草は、植生が単純なだけに量としては十分なのだけれど。そして、鳥はとにかくたくさんいる。同行した研究者やカナダに半年ほど前から住んでいる仲間とも話したけれど、ここは『春になると花が咲いて・・・でもチョウは飛ばない』。これはそこだけではなくて北米全般に言えそうなことだけれど、種類数が少ないのは地理的にもしょうがないけれど、個体数が少ないのは解せない。その理由は研究者仲間なども『鳥ではないか･･･』とおっしゃるし、私もそう思っているし。鳥の影響は鱗翅目にとって非常に大きいのではないかと。個体群の密度を下げることにかなり大きな影響をもっていると思う。それでもｒ戦略をとる奴はなんとか持ちこたえることができるかもしれないが、ちょっと特異な戦略を持つものはちょっとその捕食圧が高まっただけでいっぺんでポンといなくなってしまう。そのひとつの例がミヤマセセリなのではないかと。

原　：でもミヤマセセリの幼虫は中にはいっているでしょ。

巣瀬：それはつぶして食べる。

市川：オープンランドの幼虫はあまり食われないといわれている。

原　：林縁に卵をうんで・・・・

市川：シジュウカラなんてのは繁殖期にはじつに良く食べるね。

原　：ガの幼虫を随分たべますよ。それに混じってミヤマセセリの幼虫も食われているだろうか。

松本：このへんで食ってる鳥はなんですか。

碓井：ムクドリ。シジュウカラ・・・

松本：シジュウカラは大きい幼虫しか食べられないでしょ。

市川；だから小さいミヤマセセリなんかを食べる。

松本：ヤマダカレハのサイズだとだめでしょ。

市川：あの大きさだとほかの鳥でもほとんど食べない。せいぜいオナガかな。
松本：スズメだとどうかな。
市川：スズメは大きいのを食べる。オオムラサキの終令幼虫を食べるもの。
巣瀬：庭先でオオムラサキを飼育するとスズメにやられることが多いから。ちょうど繁殖期にあうタイミングだし。
市川：だから１化性の種はつらいんだよね。
原　：これまでの話をまとめるとミヤマセセリに対する捕食圧はかなり高そうだと。
市川：ガの例から類推してもそう思えますね。
碓井：ミヤマセセリの場合、やはり吸蜜源との関係をしっかり捕らえておく必要があるのではないか。林床の状態が悪くなって吸蜜植物が減って‥‥それが大きな原因ではないだろうか。
市川：残った林の周囲は住宅だし。
碓井：林縁にはジュウニヒトエもなければスミレもないし。ミヤマセセリの姿、たとえば色々な人が持っているスナップ写真を見ると、このあたりでは吸蜜源はほとんどスミレでしょう。だから、飛ぶ空間が残っていても、吸蜜源が咲く環境が残っていないし。そうするとやはり生活できないし。
松本：いずれにしても年１化はダメージが非常に多い。
市川：戦略的に損ですね。
巣瀬：私は吸蜜源のことは、重要だ重要だといわれているもののどうかなと思う。嵐山の杉田さんにも言われたけれど、オオムラサキは寿命も長いし吸蜜源が非常に重要であることは間違いない。なおかつ、北海道の藻岩で観察した例ではほとんど吸蜜していないのですよね。コナラはない、ミズナラは樹液があまりでない。よく樹液がでるのはエルムだけれど、観察数は少なくないにもかかわらず、吸蜜は１例も観察していないですよ。飛び回っている個体は見掛けても吸蜜する個体はついにみられなかった。いったい何を栄養源にしているのだろう。朝露でものんでいるのかと思ってしまう。それで生きられるだけ生きて、ちゃんと生活環をすすめてしまう。
市川：メスはちゃんと栄養を採らないと卵が成熟できないでしょう。
松本：メスが卵の成熟に使う栄養は、幼虫時代から持ち越した分と、オスから供給される分とある。シジミは少ないものの大部分のチョウがそうですよ。
巣瀬：栄養といってもタンパク質でしょ。でもそれは樹液ではとれないでしょう。あれは、養分としては糖類だから。糖類をタンパク質までに変えることはあまりしないでしょう。
碓井：樹液は活動源ですかね。
巣瀬：そう、だから成熟には樹液は関係ない。
松本：ゴマダラは都心にもいるでしょう。あれはもう吸蜜源は全然ないでしょ。朝露吸って生きるしかない。
巣瀬：北海道のオオムラサキと都心のゴマダラの生活状況は似ているといえる。
松本：オオムラサキを見ていると、樹液が出なくなるといなくなってしまうように思えるけれど。

巣瀬：藻岩山に限ってみると、ウジャウジャ飛んでいるのに吸っていない。吸っていれば見るチャンスは必ずあったはずだし。そもそも樹液や果実がある場所は決まっているし。そしてそこで吸う現場は見られない‥‥。それでもあれだけの個体数がいる。
あれを見てから、吸蜜源は長く生きるためには必要だとしても、種族維持には『あればいい‥‥』程度だと思った。やはり幼虫期にいかに食べるかが大きい。

松本：その幼虫期の食べ物だけれど、ミヤマセセリでは若い部分を食べているのかな。傍芽したようなのを食べているかな。そうすると夏は・・・・

市川：夏にはもう一度必ず芽がでるでしょ。それを食べるかな

巣瀬：話のつじつまを合わせるならば、切ってしまった雑木林がベストといえる。ひこばえがジャンジャン出てくるし。真夏でも緑色をしている。

原　：そういう林がなくなってきていますよね。

市川：そう、切らなくなった。

巣瀬：いちおう堅い葉も食べるけれど、ひこばえ中心に食べると考えると話がまとまってくる。

原　：でもミヤマセセリがいる林がみんなひこばえがあるとは限らないでしょう。

松本：ひこばえとは限らなくても、枝降ろしとかすれば同じような環境といえるでしょう。

原　：埼玉県ではミヤマセセリの生活は調べられていないでしょう。

碓井：そういえば、書かれているのを見たことがない。

原　：今も見られる場所で調べておかなければならないですね。どちらかといえば平野に近いところで。まあ、こんなところでしょうか、今日の話の中身は。

巣瀬：やはり、平行していなくなっている種類は何か、ということも把握しておかねば。似たような環境が生活の場で‥‥‥。

原　：クロシジミも以前は広くいたチョウですが、それでもどこにでもいる、というチョウではなかった。

市川：浦和にはいなかったし。

松本：私が知っている唯一の産地は、通っていた東大成小学校の裏の林だけ。

市川：植竹中学校の林にいたでしょ。

松本：そんなところ行ったことがない。植竹といえば、当時は遥かかなたの異郷の地でしたから・・・・・

市川：植竹は多かったですよ。

巣瀬：私がクロシジミをみていたのは上尾／北本の林。非常に多かったですね。ただし、どこにでもいる、というのではなく、ここの場所にいけばたくさん見られる、という性質のチョウだった。

碓井：ミヤマセセリとクロシジミはいなくなり方が似ていますよね。

巣瀬：上尾あたりの藤波の林など、以前よりは随分林の面積が減ったものの、それでもクロシジミがいそうな環境はあちこちにみられるのに、何故いないのだろうか。まして、ミヤマセセリは絶対いそうな場所も少なくないのに。

松本：ところでミヤマセセリは分散力はどうなんでしょうか。大きいと思うけれど。
原　：周りに林がまったく無いような場所にはいないよね。やはりある程度の雑木林があって。
松本：たしかに草原にいるイチモンジセセリやオオチャバネセセリなどに比べればそうでもないだろうけれど、他のチョウに比べてそれほど小さいとも思えないですが。わりとオープンな所も飛んでいるでしょう。
碓井：さっきも言ったように、ゴルフ場の芝の上にいっぱいいたこともある。
松本：わりと移動力があると思うなあ。それに比べてクロシジミはあまり動かない。
巣瀬：そう、そう思う。特殊な食性でもあるし。ただ、さっきも話に出た『ひこばえ』的な部分に依存しているという意味では、ミヤマセセリとクロシジミはやはり共通点があるように思える。そう考えると、両種がいなくなってきたのは木を切らなくなったせいだと考えられると思う。けれど、これまでの図鑑などに記されている食性の記述からは、そのような雰囲気が感じられない。データの取りかたが甘いのだろうか。以前、ムラサキツバメをやった時もあの話をまとめていく中で、どこをみても『ひこばえに依存している』といったことは書かれていなかったし。春先にたくさん出るひこばえをバンバン食べて育つ。年４化から５化するけれど、若葉しか食べないからひこばえなしでは考えられないような生活をしている。ましてや、年１化ともなればひこばえの持つ意味は大きいと言えるでしょう。
原　：結局、産卵習性からしっかりおさえて生活史を確実に把握しないといけないですね。ミヤマセセリがいるフィールドを近くに持っている人の観察に期待したいですね。
碓井：このあたりでは、気がついたらいなくなっていたからなあ。
市川：そういう意味では、普通種といえどしっかり記録を残す努力は必要ですね。ここにきてムラサキシジミが増えていることも気になりますが。
碓井：あれは、みんな記録しますよ。ミヤマセセリだったから記録が残らなかったのでしょう。
原　：それでは、この話はこのあたりで終わりにしたいと思います。

（ いちかわ かずお　〒336 浦和市南本町2－7－11 ）
（ はら せいき　〒229 相模原市光が丘 1-10-16 上溝寮 ）
（ すのせ つかさ　〒336 浦和市大牧梅所 1149-11 春栄マンション 203号 ）
（ うすい とおる　〒362 上尾市壱丁目454－3 ）
（ まつもと かずま 〒193 八王子市元八王子町 1-285-2 小口荘 202号 ）

寄せ蛾記 57号 目次

大野 正男：奥武蔵地方のハナノミ科とハナノミダマシ科・・・・1042
巣瀬 司：埼玉県内の1960年代の蝶の記録・・・・・・・・・・1044
夏の宿泊談話会のお誘い・・・・・・・・・・・・・・1052
小野寺奈緒子：パッ君・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1053
市川 他：埼玉県平野部のミヤマセセリをめぐって・・・・・・1055
会 報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1065
編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1065